

[第 108 回藤樹人間学塾のご案内]



皆さま

令和 2 年 8 月

NPO法人高島藤樹会

いつもありがとうございます。

本塾は藤樹先生の教えを学び、人間いかに生きるべきかを共に考える形で進めています。

8月はコロナ対策を十分に第107回を開きました。参加者は京都など市外を含め8名でした。

最初に「致知 2020.7」に掲載のされた村上和雄氏(筑波大学名誉教授)の「新型コロナウイルスの出現はサムシング・グレートからのメッセージ」を紹介しました。(1)人間業ではない遺伝子の動き、(2)人類はウイルスと共存し進化してきた、(3)利他主義がもたらす人類の進化について、等深い内容が易しく語られています。

さて、今回は『中庸解』第20章の続きです。「およそ事予めすれば則ち立ち、予めせざれば則ち廃す。…」大意について以下の様に説明しました。「およそ物事は何事によらず予め準備をすれば成立するけれども、それをしなければ失敗するものである。誠はすべてのものの根柢であるから、人は何事においても発言や行動を発する前に誠の心で省察しなければならない」。

「下位に在って上に得られざれば、民得て治むべからず。…」大意について以下の様に説明しました。「下位に在って上の信任を得られなければ民を治めることができない。上の信任を得るには、朋友に信じられねばならない。朋友に信じられるには、父母に順でなければならない。父母に順であるには、心の汚れがなく、真実の心で父母につかえなければならない。すなわち五事を正して身を誠にすることが肝要である」。

ここで、「致知 2015.3」に掲載された「お釈迦さまが説く成功の要諦」を紹介し、話を補強しました。釈尊は、人間として全面的な成功をするために六方の礼拝を説かれています。その前に殺生、盗み、妄語、姦淫等の行為を止め、欲や我がまま、怒りなどの心の汚れを落とすことが必要とされています。そして六方へのお勤めとして、東は両親へのお勤め、西は家族(夫婦)へのお勤め、北は友人へのお勤め、南は先生方(上司)へのお勤めを行います(上は出家者、下は雇人で六方)。この六方のお勤めができる人は自動的に社会のリーダーになる、と説かれています。儒教も仏教も人生で大事なことの教えの本質は変わらないということです。

フリートキングでは、「この塾で『中庸』を学んで、自分ならどう解釈するかヒントが得られる」、「漢文が読めるようになってきた」、「大学がオンライン授業になって悩む学生と一緒に苦しんでいる。寄り添うことが大事だ」、「お釈迦さまの言葉が心に残った」、「いろいろ自分の根本的な部分を考えるきっかけになった」というご意見・感想を頂きました。

学ぶは愉し！^{たの}人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。

■ 日 時 令和 2年 9月 19日(土) 15時～17時

■ 場 所 安曇川公民館(高島市安曇川町田中89)

■ テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」

テキスト 中江藤樹著・西晋一郎通訳『中庸解・通訳』第20章 p.283～

塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)